

今上天皇 徳仁様

真つ暗闇の人の世に

日出ずる国日本から光を

人類滅亡が刻々と近づく今、徳仁様ともあるうお方が一体なぜ、知らぬ顔などされているのですか。

私播磨屋助次郎は、あの日あの時のあの「最敬礼」を今も鮮明に覚えています。

天皇と覚者が協力し合えば、世界は必ず救えるのです。

しかし、覚者が死んでしまったら万事休すです。

大至急そちらからご連絡ください。

一人人でしかない私には、徳仁様は遠すぎるのです。

現下のウクライナ戦争は、人類滅亡の「第三次世界大戦」に、いえその前に一つ間違えば「北海道侵攻」にすら発展しかねません。

それはもちろんとんでもなく恐ろしいことですが、もっと恐ろしいのは「環境問題」です。**このままでは、地球環境が回復不能に陥って「人類滅亡」が確定してしまふからです。我々人類は今、現行の「不自然文明」の必然的結末として文字通り存亡の危機に直面しているのです。**

しかし実は、それを意外にすんなりと回避できる妙策が、まだ一つ残されているのです。人間社会の根本理念を「不自然」から「自然」に返すという、日本人ならもっと早く気づくべきだった至極当たり前な一策がです。

具体的には、現行の勝った負けたの不自然な「霸道理念」から、競争が全くない万人和楽の自然な「王道理念」に返すのです。さらに言えば「経済活動・金儲け競争」などなかった自給自足の大昔に立ち返るのです。こんな簡単なことで戦争は直ちに、環境問題は遠からず、自然消滅してしまふのです。

しかもそれは、少しも難しいことはありません。「**天皇**」と「**覚者**」が**協力し合いさえすれば、反対者皆無で今すぐにでも実現できるのです。**

そしてこの理念転換こそが「人類根本救済」の本義であり、それが結果的にみんな安寧幸せの「王道社会」を現実化してくれるのです。「人類根本救済」の実際は、弊社ホームページの「五つの重大真実」をご参照ください。

話は突然変わりますが私播磨屋助次郎は、この一大事を成し遂げるべく「天命」を帯びてこの世に生を受け、「覚者」にもしてもらえたのだと自覚しています。そんな私の「魂」が十五六歳の高校生時分から今日までずっと、なぜか徳仁様にだけ異常に強く共鳴し続けてきたのです。